

⑨ メモリー

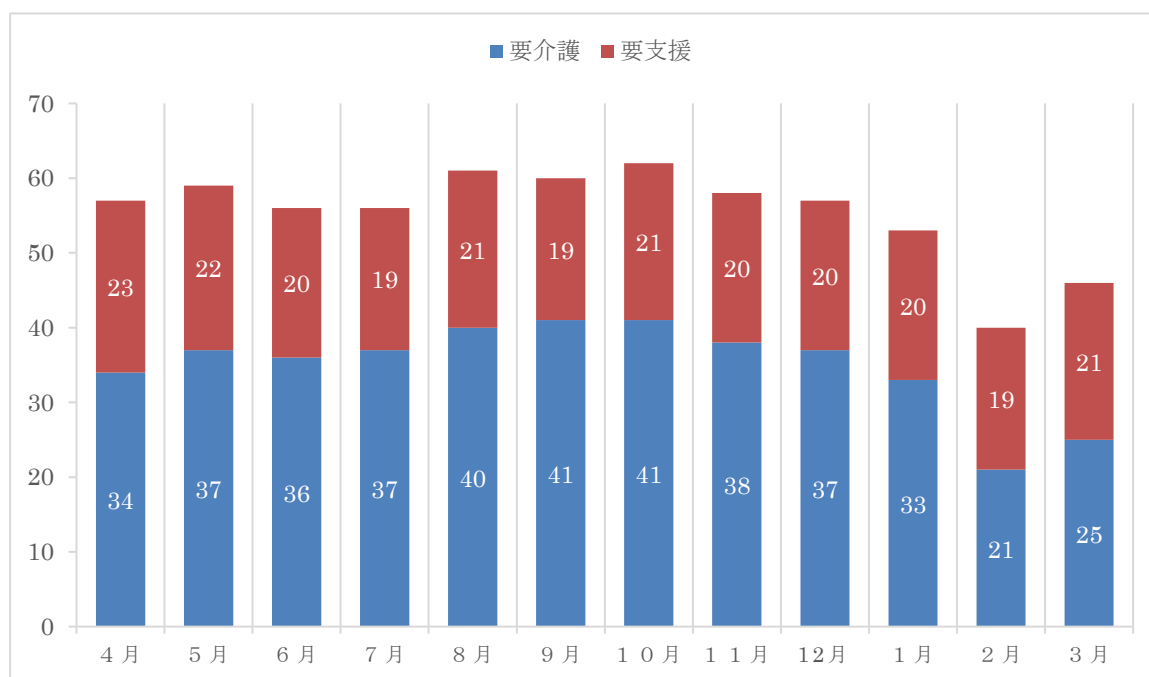
<目 次>

1. はじめに
2. 実利用者数（ケアプラン作成件数）
3. 性別・年齢別利用者状況
4. 要介護度別利用者状況
5. サービス種類別利用者状況
6. 実施地域別一覧
7. 新規相談・利用者受け入れ状況
8. 研修会参加状況
9. まとめ

1. はじめに

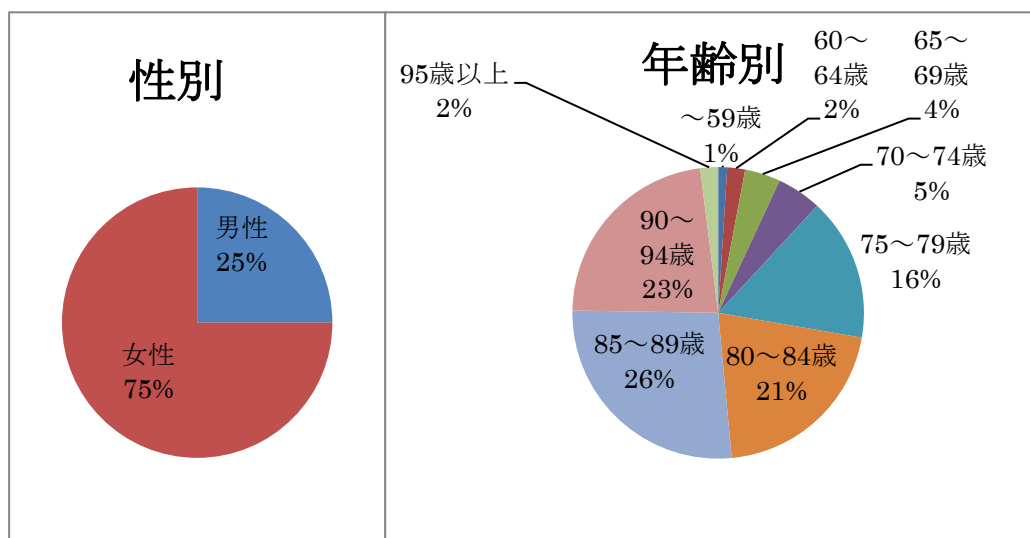
居宅介護支援事業所メモリーは、H25年5月1日に開所し、開設6年目となりました。地域密着型デイも併設しておりますので、住民の方が気軽に介護相談のできる事業所として地域に根差した関わりや繋がりが再構築できるよう、居宅介護支援事業所としての役割を明確にしていきたいと思います。

2. 実利用者数（ケアプラン作成件数）



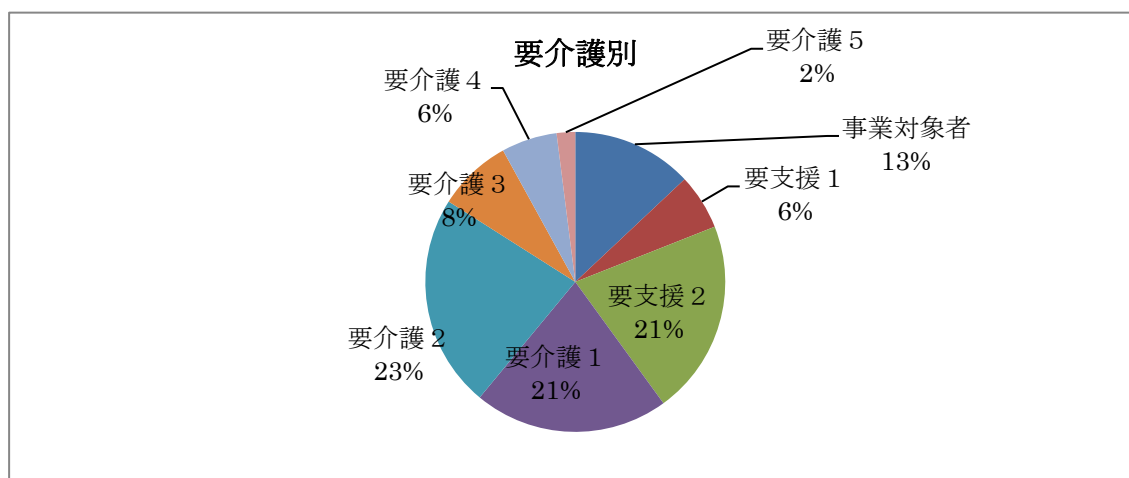
2名体制を継続しておりますが、H30年12月で前管理者が退職し新たな体制に変わりました。新規利用者については包括依頼が多く、要支援者（事業対象者）の割合が多いですが状態低下から要介護状態になる方もいるため、依頼を受けても断らず丁寧に誠実な対応を心がけていきたいと思っております。

3. 性別・年齢別利用者状況



女性利用者の割合が多く、半数は85歳以上の方です。超高齢化で元気なお年寄りも多く介護保険を始めて利用する方の年齢は上がりつつあります。

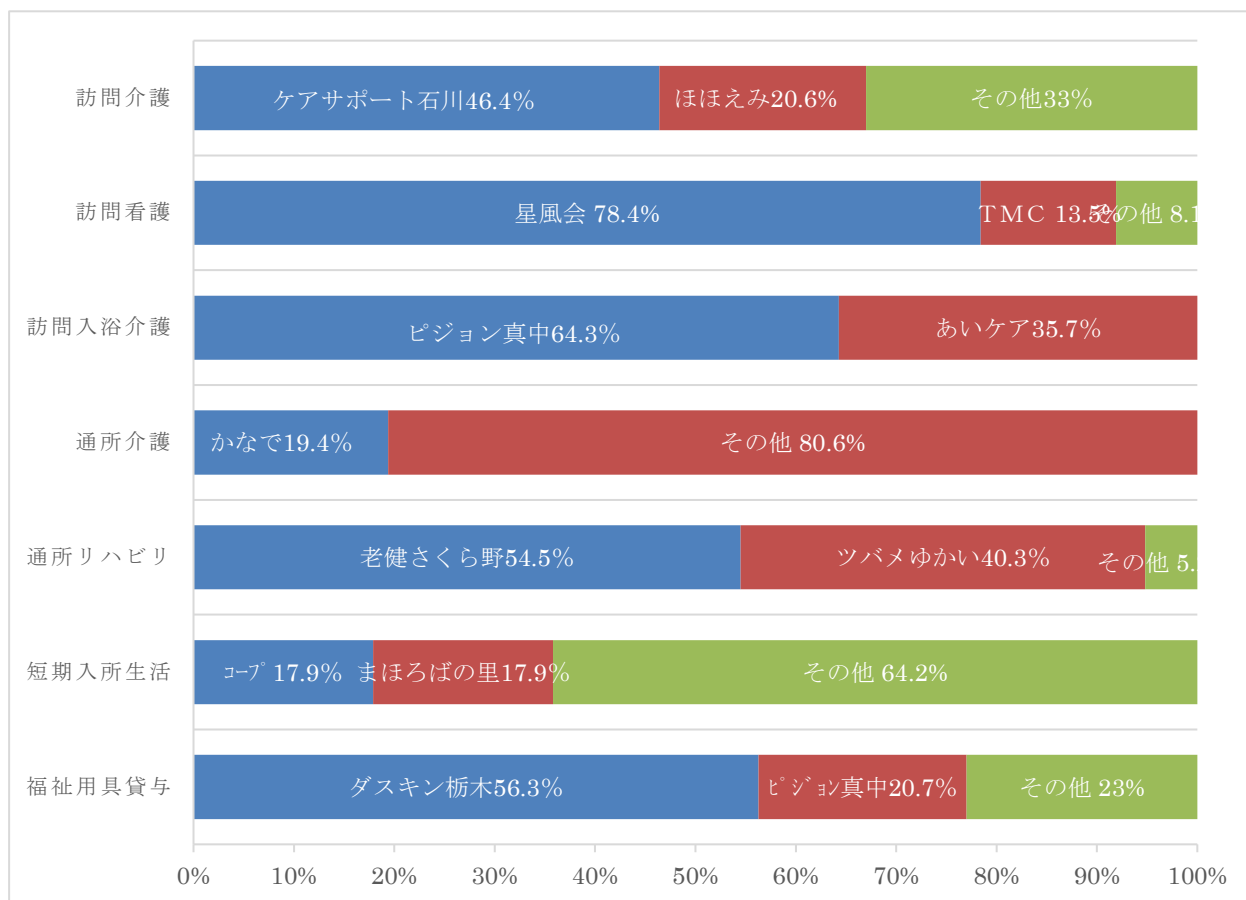
4. 要介護別利用者状況



栃木市ではH29年4月より介護予防・日常生活総合事業が開始され、介護予防サービスであった「訪問介護」「通所介護」が総合事業の「介護予防・生活支援サービス事業」へ移行したことにより事業対象者が増えました。包括からの紹介依頼が多い為、事業対象者から要介護2までの軽度者の利用者が全体的に多い割合を占めています。

独居の方が多く、要介護度が上がると在宅での生活が成り立たず、サービス付き高齢者住宅や有料老人ホーム、特養など施設入所へ移行しています。

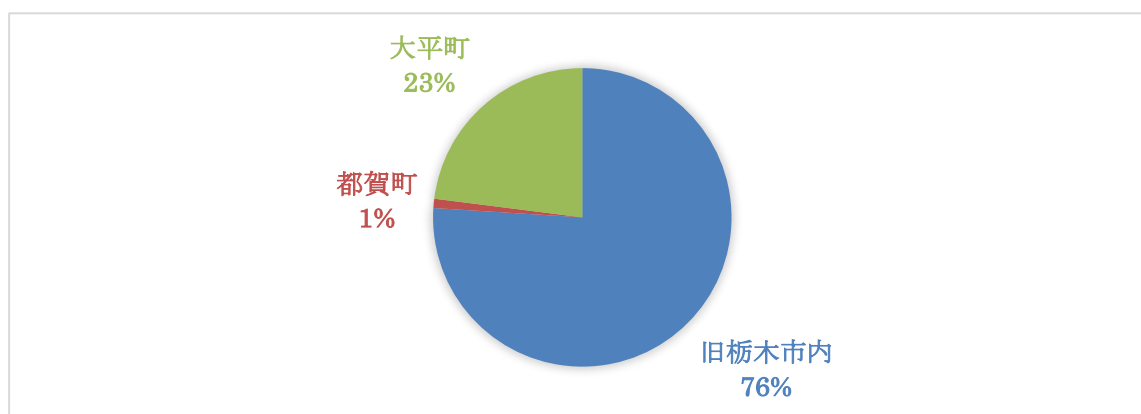
5. サービス種別事業所割合



事業所数の少ないサービスについては偏る傾向がありますが、栃木市において通所介護事業所は激戦区です。利用者や家族が自分の目で見て体験をし選ぶ時代ですので、各通所系事業所はそれぞれの特色を出して常に研鑽しながら利用者獲得をしています。

ケアマネジャーとしても、利用者の多岐に渡るニーズを捉え、一人一人に合った事業所を選択する必要があります。

6. 実地地域別一覧



現在は栃木市在住の方のみです。中でも、事業所が大平町に隣接するため大平町の方の紹介が多い傾向がありますが、栃木市の合併後も広範囲に支援対応ができる体制を整えています。

7. 新規相談・利用者受け入れ状況

相談経路	人数（名）
栃木中央地域包括支援センター	5
大平地域包括支援センター	3
吹上地域包括支援センター	1
他居宅事業所	8
利用者の家族より	4
居宅サービス事業所	2
金田医院	1
計	24

他居宅事業所のケアマネジャーの退職に伴う移管や包括支援センターからの依頼が殆どでした。事業所へ直接新規の依頼がなかった為、引き続き周知活動を継続しながら運営基準で定められたケアマネジャーの担当件数まで受け入れを継続していきます。

8. 研修会参加状況

H30.8.8 栃木市介護支援専門員協議会、メンタルヘルスケア研修

H30.10.3 栃木市介護支援専門員協議会、事例検討会

H31.1.30 あすてらすと成年後見制度研修

H30年度は研修参加が少ない状況でした。多忙な業務の中でもケアマネジャーとして日々、自己研鑽しながら業務にあたる必要がありますので、今後は積極的に研修への参加を進めていきます。

9. まとめ

介護保険制度がスタートし要介護（要支援）認定者は激増しています。認知症の診断を受ける人も増えていますが、その他身寄りのない人や8050問題、多問題家族など様々な問題を抱える人たちも多くなっています。

ケアマネジャーのみでは支援が困難な人については、一人で抱え込まないよう、行政や医療機関、地域資源などを活用するなど、各協力機関との連携を図りながら対応を行っていきます。

相変わらず軽度者切り捨てやケアプラン有料化などの議論が続き、ケアマネジメントの縮小化も見え隠れしています。必要な方へ必要なサービスを提供し、安心して住み慣れた自宅での生活が継続出来るよう、地域密着型の居宅介護支援事業所としての役割を果たしていきたいと思います。